

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ピンポイント	【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小
			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	○主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	児童の学習に対する目的意識を大切にし、自身の学びを実感できる授業を実施する。	学習のめあての提示、振り返りを大切に、自身の学びが自分でできるようにする。	4	全12学級でどちらも実施した。	4	児童アンケート「すすんで学習」9.5割以上	3	全学級担任・専科の授業で何を勉強するのか「めあて」を示し、何を学んだか「振り返り」授業を実施している。	B	明確なめあての提示、「振り返り」の実施に加え、「共通の人間関係の育成」「自己決断の場の提供」等の視点から授業改善を図る。
				3	11学級でどちらも実施した。	3	児童アンケート「すすんで学習」9割以上	2	児童アンケート「すすんで学習」7割以上	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				2	8学級以上でどちらも実施した。	2	児童アンケート「すすんで学習」7割以上	2	児童アンケート「すすんで学習」7割未満	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				1	8学級未満しか実施できなかった。	1	児童アンケート「すすんで学習」7割未満	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				4	家庭学習チェックと個別の対応を全12学級で実施した。	4	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価8割以上	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				3	家庭学習チェックと個別の対応を11学級で実施した。	3	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				2	家庭学習チェックと個別の対応を10学級で実施した。	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				1	家庭学習チェックと個別の対応を9学級以下で実施した。	1	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	2	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				4	全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。	4	児童アンケート「授業分りやすい」9.5割以上	3	市ユニバーサルデザインの冊子を活用し、全教室で適切な環境づくりを行っている。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようとする。
				3	全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。	3	児童アンケート「授業分りやすい」8.5割以上	3	児童アンケート「授業分りやすい」8割以上	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようとする。
2	全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。	2	児童アンケート「授業分りやすい」8割以上	3	児童アンケート「授業分りやすい」8割未満	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようとする。				
1	全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	1	児童アンケート「授業分りやすい」8割未満	3	児童アンケート「授業分りやすい」8割未満	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようとする。				
豊かな心	○互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	○道徳科の授業を要し、特別活動や学校行事の再考、再興をとおして児童の人間力を育成する。	児童が活動のねらいや目的を明確にもとせるとともに、事後に互いを認め合うことができる振り返りの場を設ける。	4	道徳科の特別に關した授業と特別活動や学校行事を全12学級で実施した。	4	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	4	学校行事においては活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせて指導にあっている。	B	道徳は児童の将来において基礎となるので更なる推進を期待する。学校行事では普段の授業では体験できない貴重な時間になっている。行事への参加が苦手な児童への工夫も続けてほしい。
				3	道徳科の特別に關した授業と特別活動や学校行事を10学級以上で実施した。	3	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	3	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割未満	B	道徳は児童の将来において基礎となるので更なる推進を期待する。学校行事では普段の授業では体験できない貴重な時間になっている。行事への参加が苦手な児童への工夫も続けてほしい。
				2	道徳科の特別に關した授業と特別活動や学校行事を8学級以上で実施した。	2	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。	3	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満	B	道徳は児童の将来において基礎となるので更なる推進を期待する。学校行事では普段の授業では体験できない貴重な時間になっている。行事への参加が苦手な児童への工夫も続けてほしい。
				1	道徳科の特別に關した授業と特別活動や学校行事を7学級未満で実施した。	1	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	3	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満	B	道徳は児童の将来において基礎となるので更なる推進を期待する。学校行事では普段の授業では体験できない貴重な時間になっている。行事への参加が苦手な児童への工夫も続けてほしい。
				4	全12学級で実施した。	4	保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合うよりよい人間関係を築いている。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。
				3	11学級で実施した。	3	保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合うよりよい人間関係を築いている。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。
				2	10学級で実施した。	2	保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合うよりよい人間関係を築いている。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。
				1	9学級で実施した。	1	保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合うよりよい人間関係を築いている。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。
				4	年6回以上実施した。	4	児童による評価で「相談できる大人がいる」95%以上	2	「ふれあい月間」の取組を通して、言葉遣いの指導と、いじめ未然防止の授業を実践している。スクールカウンセラーの活用を推進する。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。
				3	年4～5回実施した。	3	児童による評価で「相談できる大人がいる」80%以上95%未満。	2	児童による評価で「相談できる大人がいる」50%以上80%未満。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。
2	年3回実施した。	2	児童による評価で「相談できる大人がいる」50%以上80%未満。	2	児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。				
1	年1～2回実施した。	1	児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満	2	児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。				
健やかな体	○心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元氣アップガイドブックを活用するとともに、休み時間や放課後の外遊びが増えるよう声掛けを行う。	4	全12学級で実施した。	4	体力調査のA、B判定の児童が9割以上。	3	今後も熱中症と感染症の対策を講じながら、外遊びを実施していく。今後は授業に基礎体力を高める運動を取り入れる。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。
				3	11学級で実施した。	3	体力調査のA、B判定の児童が8割以上9割未満。	3	体力調査のA、B判定の児童が7割以上8割未満。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。
				2	10学級で実施した。	2	体力調査のA、B判定の児童が7割以上8割未満。	3	体力調査のA、B判定の児童が7割未満。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。
				1	9学級で実施した。	1	体力調査のA、B判定の児童が7割未満。	3	体力調査のA、B判定の児童が7割未満。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。
				4	健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。	4	グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。	B	引き続きよい生活習慣を身に付けさせてほしい。挨拶の推進とグッドモーニング60を継続してほしい。
				3	健康教育の授業を年2回実施した。	3	グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。	3	グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。	B	引き続きよい生活習慣を身に付けさせてほしい。挨拶の推進とグッドモーニング60を継続してほしい。
				2	健康教育の授業を年1回実施した。	2	グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。	3	グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	B	引き続きよい生活習慣を身に付けさせてほしい。挨拶の推進とグッドモーニング60を継続してほしい。
				1	健康教育の授業を実施できなかった。	1	グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	3	グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	B	引き続きよい生活習慣を身に付けさせてほしい。挨拶の推進とグッドモーニング60を継続してほしい。
				4	全12学級で実施した。	4	保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当の日に合わせて学校便等でも意識について保護者に伝えている。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。
				3	11学級で実施した。	3	保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当の日に合わせて学校便等でも意識について保護者に伝えている。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。
2	10学級で実施した。	2	保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当の日に合わせて学校便等でも意識について保護者に伝えている。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。				
1	9学級で実施した。	1	保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当の日に合わせて学校便等でも意識について保護者に伝えている。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。				
輝く未来	○家庭・地域社会との理解が深い、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	ゲストティーチャー(GT)を活用した積極的に招聘する。	4	年2回以上GTを全12学級が招聘した。	4	学力調査「地域」肯定的回答9割以上	1	1学期に10学級が1回GTを活用した。後期に計画しているGTの招聘を確実に実施する。	C	外部人材の活用は児童にとっても貴重な体験となるので活用してほしい。
				3	年2回以上GTを11学級が招聘した。	3	学力調査「地域」肯定的回答8割以上	1	学力調査「地域」肯定的回答7割以上	C	外部人材の活用は児童にとっても貴重な体験となるので活用してほしい。
				2	年2回以上GTを10学級が招聘した。	2	学力調査「地域」肯定的回答7割以上	1	学力調査「地域」肯定的回答7割以下	C	外部人材の活用は児童にとっても貴重な体験となるので活用してほしい。
				1	年2回以上GTを9学級以下で招聘した。	1	学力調査「地域」肯定的回答7割以下	1	学力調査「地域」肯定的回答7割以下	C	外部人材の活用は児童にとっても貴重な体験となるので活用してほしい。
				4	全12学級で実施した。	4	保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価9割以上	2	セーフティ教室、安全指導を全学年で実施。実施内容を確実に保護者に伝え、保護者の協力を得ながら指導を充実させる。	B	学区域の特徴でもある見通しの悪い路地の安全な歩行について、外部団体の協力を得て安全教室を実施する。
				3	11学級で実施した。	3	保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価8割以上	2	セーフティ教室、安全指導を全学年で実施。実施内容を確実に保護者に伝え、保護者の協力を得ながら指導を充実させる。	B	学区域の特徴でもある見通しの悪い路地の安全な歩行について、外部団体の協力を得て安全教室を実施する。
				2	10学級で実施した。	2	保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割以上	2	セーフティ教室、安全指導を全学年で実施。実施内容を確実に保護者に伝え、保護者の協力を得ながら指導を充実させる。	B	学区域の特徴でもある見通しの悪い路地の安全な歩行について、外部団体の協力を得て安全教室を実施する。
				1	9学級で実施した。	1	保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割未満	2	セーフティ教室、安全指導を全学年で実施。実施内容を確実に保護者に伝え、保護者の協力を得ながら指導を充実させる。	B	学区域の特徴でもある見通しの悪い路地の安全な歩行について、外部団体の協力を得て安全教室を実施する。
				4	学校行事と10個のPTA活動を実施	4	保護者(家庭数)出席9割以上	3	保護者会、学校公開、公開開、保護者会、PTA活動	B	次年度は学校運営協議会の設置初年度にあたる。学校に臨むことを収集し、地域・保護者とともに取り組む事業を開拓する。
				3	学校行事と7～9個のPTA活動を実施	3	保護者(家庭数)出席7割以上9割未満	3	保護者(家庭数)出席7割以上9割未満	B	次年度は学校運営協議会の設置初年度にあたる。学校に臨むことを収集し、地域・保護者とともに取り組む事業を開拓する。
2	学校行事と5～7個のPTA活動の実施	2	保護者(家庭数)出席6割以上7割未満	3	保護者(家庭数)出席6割以上7割未満	B	次年度は学校運営協議会の設置初年度にあたる。学校に臨むことを収集し、地域・保護者とともに取り組む事業を開拓する。				
1	学校行事と4個以下のPTA活動を実施	1	保護者(家庭数)出席6割未満	3	保護者(家庭数)出席6割未満	B	次年度は学校運営協議会の設置初年度にあたる。学校に臨むことを収集し、地域・保護者とともに取り組む事業を開拓する。				